

## 図解 解剖学事典 第3版

Heinz Feneis 原著

山田英智 監訳

石川春律, 廣澤一成, 坂井建雄 訳

＜書評者＞ 河田光博 (京都府立医科大学大学院教授・解剖学/  
生体構造科学)

本書は、ドイツ人 Heinz Feneis 著のオリジナル図譜教科書を、同じくドイツ人 Wolfgang Dauber 氏が新たに Bild-Lexikon (図解事典) として出版した日本語版である。訳は山田英智先生監訳による日本解剖学会の名だたる方々によるものであり、日本語に加えて、英語、ラテン語、さらに 1~2 行程度で解説を加えたイラスト事典である。アメリカ系の局所解剖を中心とした教科書が多い中で、いわば伝統的な事典である。

第一の本書の特徴は、コンパクトなサイズでありながら、その内容が大変充実しており、見開きになって左のページに解剖学名が日本語、英語、ラテン語と解説文、右のページにその番号に従ったイ

ラストが記載されており、とても見やすいことである。カラー刷りの大著なものと違い、どこでもいつでも手にとって見ることのできる、しかも品格のある本である。

第二の特徴として、配列が系統的である。近年の解剖書にみられる神経、血管、筋、骨が一緒になった図とは異なり、骨から始まり、関節、筋、各器官系の臓器の順に用語と図がならび、最後は神経系、皮膚で終わる。局所解剖時に、あの骨はどうだったか、血管全体はどうだったかと思うことがしばしばあるが、それに応えてくれる頭の「交通整理官」である。

第三の特徴は、今どきラテン語と思われるかもしれないが、ヨーロッパ系の教科書は、英語であつ

てもラテン語に忠実であることである。私たち日本人に必要とされる正確な日本語名と、英語名、さらに、小さなフォントでラテン語名が記載されている解剖学図譜はこの本をおいて他に類を見ない。加えて、それらが巻末にきちんと、日本語の索引、英語の索引、ラテン語の索引と別々に分類されているのも、読みやすさを助けている。

もちろん、本書 1 冊では複雑な人体の解剖の指南書とはならないが、日本人に特徴的な系統的に物事を考えようとする気質に合致した本であり、補助アトラスというだけにとどまらない良書である。解体新書もターヘルアノミアの図譜を中心とした訳本であったが、本書は、直木賞、芥川賞ではない本屋大賞第 1 位に当たる医学版の解剖図譜事典ではないだろうか。

●A5 頁 608 2013 年

定価：本体 3,800 円＋税

[ISBN978-4-260-00006-2]

医学書院 刊